

発行日 令和8年2月16日  
発 行 蚕桑地区コミュニティセンター  
電 話 85-2153  
F A X 85-2123

# 掛け声響く



# もちつき大会



恒例事業ともあり、多くの子ども達や保護者の方の参加をいただき、大変盛り上がりました。今回は白もちと草もちを杵と臼でつめ、わな粉もちと納豆もちの他に雑煮もちにしておこしで食べました。

1月17日(土)に「わキツズ広場事業⑦「新春もちつき大会」を行いました。



## 防災通信(5)

### 3・11 防災を考え、話し合つ機会に

#### ○ 東日本大震災から15年

東日本大震災から15年になります。

日本周辺における観測史上最大の地震である《東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）を引き起し、た地震》は、東北地方の太平洋沿岸地域をはじめ多くの地域に甚大な被害をもたらしました。白鷹町でも震度5弱を観測し、大きな被害はなかったものの、停電等により一時不便な生活を強いられました。この震災を機に家庭での食料や燃料、日用品等の備蓄など災害対策をされた方も多いと感じます。地震に限らず、毎年、日本のどこかで大きな災害が起っています。行政機関も過去の災害を教訓に治山治水など防災対策を行っていますが、それでも災害が起らなかつた年はありません。災害は、激甚化・頻発化しています。

#### ○ 家庭環境や状況の変化に応じた災害対策を

この15年で、子どもの成長や家族構成の変化、引っ越しやオール電化・高断熱高気密の家にしたり、ライフスタイルが大きく変わった方もいると思います。このような家庭環境の変化に応じた災害対策が重要です。（例：高気密住宅で石油ストーブの使用は注意が必要です）自分と家族を災害から守るために、「どんな災害が起るのか・その災害がもたらす被害（影響）」を考えて、現在の家庭環境に合った災害対策を実施する必要があります。

#### ○ 3月11日は「県民防災デー（防災点検の日）」

山形県では、3月11日を『県民防災デー（防災点検の日）』と定めています。

大きな教訓を学んだ東日本大震災を風化させることなく防災意識を高め、この機会を活用して、災害に備え、いざというときの行動や対応等の点検を行いましょう。“としています。（詳しくは山形県HP《これから防災やまがたー》を「確認ください」）災害派遣で被災地に行ったり、現地の住民や行政機関の職員など多くの方々から、「まさか、ここにこんなことか」「長年住んでこないが人生ではじめて」といった感想を耳にします。

ぜひ皆さんもこの機会に、いつ・どこで起つても不思議ではない災害に備えるために、自分や家族、地域の現状に応じた防災について考えて、話し合つてみましょう。3月13日まで中央公民館町田公民館において、【東日本大震災パネル展示】を行っていますので、ぜひご覧ください。

（地域防災マネージャー 橋本 和彦）

山形県HP  
《いわみ防災やまがたー》

県民防災デー



## サロン通信②

### 「横越ふれあいサロン」の紹介

横越ふれあいサロンは、10、11町内にお住まいの方を対象に高齢者の交流ふれあいの場として平成22年に発足しました。現在、利用者14名、ボランティア12名で活動しています。

活動は月1回で、お盆の8月と歳暮期の1月、2月はお休みしています。主な内容は健康教室や軽スポーツ、お楽しみ会、小旅行、お食事会等を行っています。中でも「新そばを食べる会」は特に好評で、利用者の「そば打ち名人」に新そばを打ついただき、

参加者皆さんで舌鼓を打ちます。また、福祉バスをお借りした小旅行では、県内の観光地や施設を訪れて買い物などを楽しんでいます。今年は山形県庁と洋菓子のシベール工場を訪問し、そのあとは県物産館「べつと山形」で買い物を楽しんできました。

65歳以上の方であればどなたでも気軽に参加できます。都合でのお休みも自由ですので、多くの皆さんのお参加をお待ちしております。

#### ○お問い合わせ先 菅野 純子(090-1483-0133)

新野 康子(090-1483-0133)



↓新そばを食べる会の様子



# 募集とお知らせ

お申込み・お問い合わせ 蚕桑コミュニティセンター ☎ 85-2153

## 令和7年度 研修会の「」案内

令和7年度研修会を左記の内容で開催いたします。

○日 時 3月8日(日) 午前10時～正午  
(受付 午前9時30分～)

○会場 蚕桑「」センター  
（新築）

○内 容 報 告 (集落点検)

テーマ 「地域つくりアンケートと人口動態」  
(担当) 集落支援員 梅津秀明

### 講演会

テーマ 「あゆーむまみれ～企画と人脈～」  
講 師 白鷹町文化交流センター「あゆーむ」

館 長 橋本淳一 氏

### 講師紹介

白鷹町文化交流センター「あゆーむ」  
館 長 橋本淳一 氏



「参加申し込み  
QRコード」

○締切り  
3月5日(木)

蚕桑の方全員  
を対象とした研  
修会となります。  
ぜひ蚕桑「」  
セイヨウカイロ  
や「」でお申し  
込みください。  
※左のQRコード  
からもお申込み  
可能です。

使用済みカイロの回収を行っています。

○対象 貼るカイロ、貼らないカイロ  
※使用期限切れカイロでも回収します。

○場所 蚕桑「」センター  
（設置してある回収箱に）

## 一般教室

随時、受講生募集中

### ① 美文字教室

○日 時 2月19日(木)

3月5日(木)・19日(木)  
午後1時30分～

○定 員 14名

### ② 絵画教室

○日 時 隔週木曜日  
1回 500円



## 使用済みカイロの回収



## これからの予定

- 2月10日(火)～3月16日(月)  
青パト協力者へ謝礼品お渡し期間
- 2月14日(土) こぐわキッズ広場事業⑧
- 2月17日(火) みそ作り教室  
地域振興部会
- 2月19日(木) 美文字教室
- 2月26日(木) 絵画教室
- 3月5日(木) 美文字教室
- 3月8日(日) 研修会
- 3月10日(火) むつみ学級 閉級式
- 3月18日(水) 蚕桑小卒業証書授与式
- 3月19日(木) 美文字教室

※毎週(木) 青色パト車運行

## 新春のべびい

1月10日(土)に蚕桑「//セイ」にて蚕桑地区新春のつどいを開催しました。

地区内の組織代表や施設・地元企業代表など総勢93名と多くの方にご臨席いただきました。来賓の方々からの祝辞に続き、第一部は白鷹町出身のソプラノ歌手・菅原和奏さんによる新春のしらべ。豊かな声量で奏でられるオペラの旋律に会場全体は圧倒されました。第一部の祝宴では、近況報告はもちろんですが、新年の抱負やこれから蚕桑地区についての話題等といった新春にふさわしい活発な懇談の場となりました。

おつみ・一般学級合同事業  
うた「じえ喫茶」  
1月26日(日)に音楽療法士の柴田みゆきさんを講師に迎え、うたじえ喫茶を開催しました。懐かしい歌をうたしながら、リズムゲームのように手拍子をしたり、手足を使つた脳トレをしたり、皆さん楽しんでいました。時折、笑顔もあり、来年度もまたしてほしいなどの声もいただき、大変嬉しく思ひます。柴田みゆき先生、ありがとうございました。



## 青パート通信⑦

### ① 各受講生、参加者を募集中!

蚕桑「//セイ」では定期的に「絵画教室」「美文字教室」を開催しております。また「おつみ学級」では年間を通しておもむろなことを楽しんで活動をしております。家庭や職場以外での「自分の時間」を楽しむ場として、ぜひ参加してみませんか?

### ② 青パート協力者へ謝礼品のお渡しのJ案内

毎週木曜日の青パートの協力いただきありがとうございます。「協力いただいた皆さんへ」セイより謝礼品をお渡します。

お渡し期間：2月10日(火)～3月16日(木)まで

右の期間中まだ「//セイ」へ来ていただき、謝礼品を受け取つてください。令和8年度も青パートへの協力のほどよろしくお願いします。

### ③ 忘れ物について

蚕桑「//セイ」で保管している忘れ物ですが、左の期間までに取り戻しがない場合は処分します。

保管期間：3月25日(水)まで



お問い合わせ  
☎ 080-181-5333

## サポート募集のJ案内

### 「じえわキッズ広場

「じえわキッズ広場」とは…

子ども達と様々な体験を通して、地域に根ざした活動を行つています。

活動内容：農業体験、料理教室、町探検など

○Jじえわキッズ広場では子ども達と一緒に活動していただけの方(サポートター)を募集中です。

○J協力いただけの方は、蚕桑「//セイ」(梅津)まち1J連絡ください。

○お問い合わせ：蚕桑「//セイ」 080-181-5333

## 更生保護女性会 会員募集のJ案内

### ① 合同葉は「無理せず、自分のじれりの範囲で…」

次代を担つやうにも達の健やかな成長と明るい将来を願つ、自主的ボランティア団体です。

○更生保護女性会とは…

・小中学校でのおつみの運動

・保護司と一緒に社会を明るくする運動

・研修会など

○更生保護女性会では無理せず、できる範囲で一緒に活動して下される方を募集しています。

男性は賛助会員としての入会になります。

●会 費 2000円(賛助会員は1000円)

○お問い合わせ：更生保護女性会事務局  
(町民課)環境係 ☎ 080-181-3131



## 白鷹町役場 税務課出納課 申告相談のJ案内

### 白鷹町役場 税務課出納課 申告相談のJ案内

○蚕桑地区的日程：2月24日(火)～27日(金)

|        |              |               |
|--------|--------------|---------------|
| 24日(火) | 午前・蚕桑1・2     | 午後・蚕桑3・8・10   |
| 25日(水) | 午前・蚕桑6・7     | 午後・蚕桑4・5・15   |
| 26日(木) | 午前・蚕桑12・13   | 午後・蚕桑11・14・16 |
| 27日(金) | 午前・蚕桑9・17・18 | 午後・蚕桑19・20    |

○時間：開館 午前8時30分

《午前の部》受付 午前8時45分～11時

相談 午前9時 開始

《午後の部》受付 午後11時45分～午後3時

相談 午後1時 開始

○お問い合わせ：税務課出納課・市民税係 ☎ 080-181-3132

## 地域で輝く企業びと～農業組合法人アグリサービスこぐわ～



↑説明をされる相模さん

地域振興部会では、地元の企業や経営団体を知ってもらうために情報発信を行っています。今年度は、日本各地で発生した「令和の米騒動」が大変関心が高いため、蚕桑地区の農業法人「アグリサービスこぐわ」の相模さん、小林さんにお話を伺いました。  
以下はその時の質問をまとめたものです。



↑アグリの事務所で説明を聞く

### Q1.起業した経緯を教えて下さい

平成13年から西田尻転作大豆組合で大豆の生産を行っていましたが、将来的に個人で事業を行うには様々な問題があると思い平成16年に6人で法人を設立したことが始まりです。初めは大豆のみでしたが、そば、枝豆、ユーカリと広げ、平成27年から個人で行っていた米の生産も法人で行うようになりました。

### Q2.従業員の人数と各々の仕事内容について

現在8名で米や大豆などの栽培から収穫まで担当や管理区域を決めて行っています。  
繁忙期は地域の方を頼んで対応していますが、今は65才でも会社勤めをしている方が多いので、人集めで苦労しています。

### Q3.作付けしている作物の種類と割合について

米 53.7ha (はえぬき 34.7ha、つや姫 12.8ha、コシヒカリ 0.6ha、雪若丸 5.6ha)

大豆 17.8ha (秘伝大豆 8.9ha、里のほほえみ 8.9ha)、枝豆 5.6ha (6品種)、そば 8.2ha (でわかおり)

キャベツ (加工用) 60a、ユーカリ露地 25a、ユーカリハウス 1120坪、タラの芽 35a



### Q4.一年間の作業の流れと冬期間の対応

1月 タラの芽収穫、ユーカリ収穫 (ハウス)

2月 タラの芽収穫、ユーカリ収穫 (ハウス)

3月 水稲育苗の準備、タラの芽収穫、ユーカリ収穫 (ハウス)

4月 水稲育苗、タラの芽収穫

5月 田植え、枝豆播種

6月 水稲管理、枝豆播種、大豆播種、ユーカリ定植

7月 水稲管理、枝豆収穫、キャベツ種まき

8月 水稲管理、枝豆収穫、そば種まき、キャベツ定植

9月 稲刈、枝豆収穫

10月 稲刈、そば収穫、キャベツ収穫、ユーカリ収穫

11月 大豆収穫、キャベツ収穫、タラの芽穂木収穫、ユーカリ収穫 (露地)

12月 タラの芽促成栽培、ユーカリ収穫 (ハウス)

年間を通じて繁忙期とそうでない時はあるが、やることは多いです。



## Q5.所有している機械と設備についてお聞きします

トラクター4台、田植え機（8条）2台、

コンバイン（6条）2台

肥料散布機1台、乗用管理機1台、ハイクリブーム1台、

播種機1台、畦塗機2台

除雪ロータリー1台、管理機1台、パイプハウス10棟、

格納ハウス2棟

軽トラック4台、軽ワゴン1台

近くにJAの白鷹カントリーエレベーターがあり、ここに米の乾燥、調整作業を委託しています。



## Q6.仕事で苦労していることなどは？

- 毎年のように起きる異常気象（高温、干ばつ、大雨等）により、栽培している作物の生育、収量、品質に大きな影響がでることです。
- 肥料・農薬等の生産資材や、軽油・ガソリン等の燃料の高騰です。
- 中山間地域のため、圃場の畦畔や法面が大きく、管理作業が大変です。
- ユーカリは、生産者が少ないと、試行錯誤しながら栽培を行っています。

↑今日のあたりまえが、未来へもつながる

## Q7.今後の計画や目標をお聞かせください



↑アグリ事務所前

地域の農地を法人が継続して耕作していきたいと考えています。

そのために、人材を募集しています。（正社員）  
4月～10月の繁忙期は休みが少なく、11月～3月は、休みが多いです。

1年間の変型労働時間制です。

“一緒に西田尻を耕しましょう！”



## まとめ

一年を通していろいろな作物を生産することによって、仕事を切れ目なく回し、工夫をしていることは考えられているなと思いました。また、田んぼの育成管理に衛星の写真データを見るなど新しい技術を取り入れていることに感心しました。

耕作放棄地をなくすためにも地域の農業法人にがんばってもらいたいと思いました。気象状況に影響を受ける大変な仕事ではありますが、若い方や女性の従業員が増えるといいですね。